

市民文化の向上に クラシック協会を結成



高塚春子さん

市ピアノ界の重鎮高塚春子さん(水戸島二)は、富士クラシック協会を結成しました。

この会は、日ごろ活動機会の少ない音楽大学出の音楽家が集まり、自分たちの技術向上と市民文化の向上を目指したものです。既に、ピアノ、ボーカル、サックス、バイオリンなどの音楽家三十九人が集まっています。「来年には、奉仕の精神でコンサートを開きたい」と高塚さん。問い合わせは、事務局の馬飼野京子さんへ(電話)一四七五。



△編集会議の一コマ

富士南地区が

郷土誌ききょうの里を発刊

八月六日、富士南地区のまちづくり推進会(齊藤保春議長)は、「郷土誌ききょうの里富士南」を発刊します。この本は、富士南地区誕生十周年記念事業の一つで、美濃部脩之さんを編集長に約十人の編集委員が二年余りの年月をかけた労作。内容は、歴史・文化・信仰・産業・行政など広範にわたっており、地域の二百人を超える皆さんから原稿が寄せられました。大きさはA5版で五百二十六ページ。定価二千円。問い合わせは、富士南公民館へ(電話)一三六三二。

招福わらしのおじいさん 中里一の服部君作さん

「人が喜んでくれるのが楽しみ」と、ミニわらしを日課のようにつくる中里一丁目の服部君作さん。耳も目も丈夫で腰も曲がらず、とても八十四歳には見えません。「小学生のときからわらしをつくっている」と言いますから、もちろん実際に履けるものもつくりますが、最近はおっぱらアクセサリー用のミニわらしに。海外旅行のお土産に喜ばれるほか、服部さんの長寿にあやかりたいとほしが

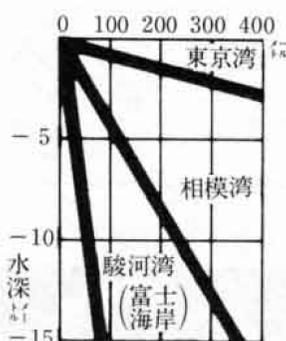
る人も多いとか。招福わらしのおじいさんです。



服部君作さん

このため、太平洋で発生した巨大な波は、ほとんど弱くならず押し寄せます。富士海岸は日本でも有数の高波の来襲する海岸でもあります。

主な海湾の勾配



夏といえば海水浴。富士市は駿河湾に沿って約9キロの海岸線がありますが、残念ながら海水浴場はありません。なぜかといえば、富士海岸はすごい急深な海岸だからです。

駿河湾自体最大水深が約2,500m、平均では約550mという日本一深い海です。その駿河湾へ富士海岸は、海岸すぐそばから急激に深くなっています。この海底勾配の急深度が日本一です。

△田子の浦港から東を望む



富士市のギネス No.1 日本一急深な海岸

あじやます あじやます 蛍の里づくりをめぐります

原田小の自然観察クラブの皆さん

六月から七月にかけて、原田小学校の「せせらぎ」の森に蛍が飛び交いました。この蛍は、原田小の自然観察クラブの皆さんが飼育したものです。子供たちは、蛍の里づくりを目指し、目を輝かせています。

自然観察クラブには、四年生から六年生の自然好きな児童二十二人がいます。毎日、理科室で蛍とえさのカワニナ(巻き貝の一種)の水かえや水温管理などを小まめに行っています。

飼育のきっかけは、昨年、顧問の山田高先生が「せせらぎ」で蛍を発見してから。原田の湧水を水源としている「せせらぎ」の森の小川に蛍がいたとあって、子供たちも積極的に取り組んできました。

しかし、犬や猫の飼育と違って、蛍の飼育は並み大抵ではありません。

蛍を飼うには、まずえさのカワニナを繁殖させなければならず、現在、両方を卵から飼育しています。また、卵も幼虫も肉眼では見分けが難しいほど小さく、細心の注意が必要です。その上、水が常にきれいにしておくことが絶対条件です。こうした活動が認められ、六月には理科教育の助成で



△親水公園ともいえる「せせらぎ」に集まった皆さん

有名な山崎賞を受賞しました。

山田先生は「蛍の飼育を通して、子供たちが郷土を誇りに思えば、ひいてはそれが地域づくりにつながるはず」と語ります。来年、はたして蛍が育つかどうかは、これからの飼育次第。「原田小を蛍で有名にしたい」(部長の遠藤聡彦君・六年)とみんな張り切っています。